

没後35年 北澤映月展
関連事業 シンポジウム

映月を考える、

映月から考える



《江戸と上方》1975年 山中氏蔵



美術館 WEB

2025年10月18日(土)

13:30 ~ 16:30

(13:00 開場)

主催 平塚市美術館
協力 美人画研究会
後援 東海大学文明研究所
会場 平塚市美術館ミュージアムホール
(オンラインでの配信はありません)
定員 150名(申込不要・先着順)
参加費 無料

プログラム

- 13:30 開会の挨拶 加藤弘子(平塚市美術館 特別館長)
13:45 基調講演 家田奈穂(平塚市美術館 学芸員)
「北澤映月について」
—休憩—
14:30 報告1 田所泰(泉屋博古館東京 学芸員)
「映月を考える 上村松園画塾からその後へ」
14:55 報告2 篠原聰(東海大学 准教授)
「映月から考える 戦後の葛藤」
—休憩—
15:30 全体討議
司会・角田拓朗(神奈川県立歴史博物館 主任学芸員)
16:30 閉会の挨拶 角田拓朗

平塚市美術館

SHONAN
THE HIRATSUKA MUSEUM OF ART

映月を考える、映月から考える

2025 年 10 月 18 日 (土) 13:30 ~ 16:30 (13:00 開場)



《紅葉》 大正末～昭和初期 平塚市美術館蔵

平塚市美術館では、これまで多くの女性画家を取り上げて展覧会を開催してきました。特に日本美術院の画家は、藤沢に片岡球子^{かたおかたまこ} (1905-2008 / 2017 年開催)、鎌倉に小倉遊亀^{おぐらゆき} (1895-2000 / 2018 年開催)、横浜に莊司福^{しょうじふく} (1910-2002 / 2019 年開催) と、県内にアトリエを構えた女性画家が旺盛な制作活動を展開しており、その画業を紹介する展覧会にもおのずと力が入りました。こうした活動が実を結び、当館では近年、同じく院展の女性画家・北澤映月 (1907-1990) の作品や下図、さまざまな資料類の寄贈を受けることになりました。

北澤映月は昭和戦前期に上村松園、土田麦僊のもとで厳しい修行を重ね、その簡潔な構図や線描による表現を確立するとともに、麦僊没後は日本美術院に出品。いまだ女性画家の少ない時期に日本美術院の二人目の女性の同人として、また日本美術院のなかでは珍しい京都画壇出身の同人として活躍しました。戦後は、歴史や文学に生きた女性を主題としてさらに才能を開花させましたが、その画壇での位置づけは現在つまびらかではありません。

そこで、本展出品作のほか、当館が寄贈を受けた多数の資料類をもとに、作家像や、戦前から戦後にかけての作品制作のありようの様式の変容を検証し、映月の日本画壇における位置づけを考えるシンポジウムを開催します。一貫して女性像をモチーフとした映月の作品を起点に、戦前から戦後の日本画の造形やモチーフについての対話の場になれば幸いです。



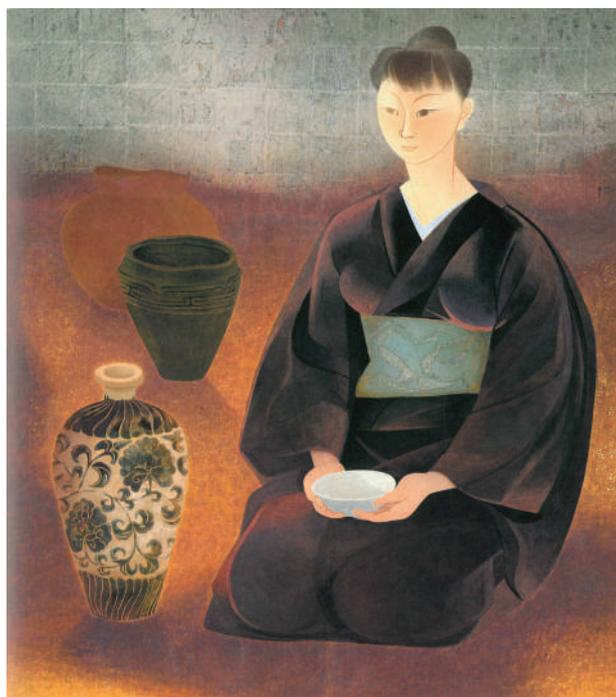
平塚市美術館

SHONAN
THE HIRATSUKA MUSEUM OF ART

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡1-3-3
TEL0463-35-2111 FAX0463-35-2741
<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>

【アクセス】

JR 東京駅から東海道線または新宿駅から湘南新宿ライン (直通) で約 1 時間。
JR 平塚駅東改札口を出て北口よりバス 4 番乗り場乗車「美術館入口」(徒歩 1 分) 下車。または平塚駅より徒歩 20 分。
駐車場 67 台 (美術館ご利用の場合、90 分間無料、要認証)。



《壺と坐婦》 1958 年 個人蔵